

平成28年度 香川県立琴平高等学校 学校評価書

1 ミッション

地域社会で活躍する、誠意ある熱意あふれる創意に満ちた人間の育成

2 ビジョン

- (1) 誠意、熱意、創意を持って地域社会で活躍できる生徒を育てる学校
- (2) 教職員の協働により組織として教育実践を推進する学校
- (3) 保護者・地域との連携を図り、地域社会から信頼される学校

3 本年度の重点目標

- ①「地域で学び、地域で育つ琴高生」を実現するために、次の4点について重点的に取り組む。
 - ・基礎学力の向上
 - ・基本的生活習慣の確立
 - ・進路意識の高揚
 - ・地域連携の推進
- ②教職員の自律性と協働性を高めるシステムを構築する。
「元気のでる学校づくり」のため、教職員による提案システムの構築、情報共有の方法の改善、校務分掌組織の見直しなど、教職員の自律性と協働性を高める学校経営システムを構築する。
- ③学校を進化する組織として再構築する。
学校評価のあり方を見直すなど、常に進化し続ける組織のあり方をめざす。

4 自己評価表（校務分掌、学年団、各教科）

5 学校評価アンケート（各学年、3年保護者、教員、自由記述）

6 学校関係者評価（学校関係者評価委員会、平成29年度に向けて）

※1 評価計画は、①＝会を開いて話し合う、②＝アンケートをとる、③＝その他(具体的に記入)

※2 実施状況は、A＝「良く成果をあげた」、B＝「成果があがった」、C＝「あまり成果がなかった」の3段階での評価を書く。中間評価は、年度末での評価予想を書く。

中間評価：分掌・学年団は9月末、教科は10月末。最終評価：1月末。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教務部	多様な進路希望に応じた学習指導を行うとともに、魅力ある教育課程を編成し、本校の特色を明確にする。	現在の教育課程を検討し、多様な進路希望に応じたコース・科目選択能力を育成するとともに、適切な学習指導を推進する。	②	B	生徒の進路実現に適した教育課程にするため、情報実務コース3年次の商業に関する選択科目を増やすことを検討している。	B	平成28年度入学生の情報実務コース3年次選択科目に「原価計算」を追加し、さらに平成29年度入学生の3年次に「ビジネス情報」を追加することで、生徒の進路希望に即した科目が履修できるよう改善した。	I C Tを活用した授業や、アクティブラーニングを実施する際に利用できる様々なホワイトボード等の教育機器類を整備し、通常の授業や研究授業で活用してもらうことで、次期学習指導要領のスムーズな導入に向けた準備を進めたい。
	各種行事や業務のマニュアル化を進めるとともに、業務のスリム化、円滑化、効率化を図り、本校のスタンダードを確立する。	各業務の確実な引継ぎと見える化を進めることで、業務の必要性を見直し、順位の低い業務から効率化を図る。	②	B	利用頻度の低い時間割変更黒板の使用を廃止し、業務の効率化を図った。 周知事項の確実な連絡のため、職員室の掲示用ホワイトボードを大きくすることを検討している。	B	業務効率化が可能な項目を各分掌で検討してもらうことで、見直しを持って業務軽減を考える意識付けができた。	また、現在行っている追調査の見直しを行うことで、バランスの取れた業務軽減が図れるよう検討したい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
生徒指導部	校則を理解させる。正しい制服の着用ができるように服装指導を徹底することにより、規範意識の育成を図る。	正しい制服の着用を意識させる。学年では、学年主任、学年生活指導を中心とした指導体制作りを行い、学年で偏りが無い指導を行う。	①	B	制服着用の基準と、ルールを守ることの大切さを意識させることに関しては常に指導を行っていかなくてはならない。特に、2,3年生のスカートの着崩しを重点的に指導する。	B	クラス担任の指導の差が生じており、着崩しに関するアンテナがぼやけてきているように感じた。先生方の意識改革を行わなくてはならない。	ネクタイ・リボンの変更に伴い、ばらつき感が否めないが、制服の正しい着用を身につけさせる。校則などのルールを守ること、規範意識を高め、基本的生活習慣を身につけさせる。
	校門指導や登校指導を実施することにより、基本的生活習慣を身につけさせる。	時間を守ることの大切さや遅刻させない環境を作るために、校門指導、登校指導を実施する。	①	C	登校指導が円滑に行われるよう、先生方への啓発を行う。漢字・英単語テストや定期考査を利用し、時間を守ることの大切さを生徒へ働きかけ、意識改革を進めていく。	B	遅刻を減らす目的であれば、目標は達成しているように感じるが、時間を意識させるためには、遅刻ギリギリで登校している生徒への意識を変えなくてはならない。	正しい制服の着用を確認するうえでも、登校指導は大切である。全職員が校門で同じ指導を行うことが最も効果的な方法であることを踏まえ、服装、遅刻の両面から指導を行っていく。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
進路指導部	進路情報を有効に活用し、進路意識の高揚を図る	総合的な学習の時間の充実。進路相談会・見学会・講演会等の実施。	②	B	今年度行った内容を次年度に使えるよう記録整理していく。	B	総合的な学習の時間を有効に使い、滞りなく計画、実施できた。各種進路行事も生徒の進路意識高揚に寄与した。	総合的な学習の時間のさらなる創意工夫。進路行事では事前事後指導の充実。
	学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図る	基礎力診断テスト、進路サポートの有効活用。	②	B	学年当初にしたまま、で終わりにせず、時期毎の活用法を考える。	C	学習意欲や基礎学力の向上に有効であったかの検証は難しく、継続的な指導が必要。「進路サポート」は十分に使いこなせなかった。	基礎力診断テスト事後教材の活用等、年間通しての継続的な指導。
特別活動部	特別活動に積極的に参加することを推進し、協調精神や自己肯定力の育成を図る。	生徒会活動・LHR・部活動を通して、生徒が自主的に参加できるようにサポートする。	①②	B	生徒会活動や部活動の活性化のために、1年生の参加を呼びかける。	B	各行事、生徒が積極的に参加して、活動を盛り上げることができたが、自主的に生徒自身が考えた行動や活動は十分ではない。	仕事を計画的に進め、生徒が教員からの指示を待つことなく、自主的な活動ができるように促す。
	学校内外の活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	学校行事や部活動を通して、社会で自立できるような活動を行う。	①②	B	部活動を通して、体力や協調性の育成だけでなく、ボランティア活動にも参加できるように呼びかける。	B	部活動を通して、体力の増進とともに、協調性や社会性を育成することができている。	部活動の顧問に依存しすぎず、学校全体で取り組むような活動を考えていく。

分 掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※ 1	実施状況 (中間評価) ※ 2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※ 2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
人 権 ・ 同 和 教 育 部	現職教育の充実により,教職員の人権問題に関する認識の深化や授業における指導力の向上を図るとともに,差別やいじめを許さない教職員の姿勢を示すことで,誰もが安心して過ごせる学習環境を整える。	現職教育の機会の積極的活用や人権・同和教育LHRの事前研修等の充実を図るとともに,日常的な教育活動の様々な場面においても人権尊重の意識向上の徹底をめざす。	①	B	人権・同和教育LHRの事前研修のよりいっそうの充実を図る。教職員の人権問題に関する認識の深化につながるような現職教育を工夫する。	B	参加・体験型の現職教育の実施を通し,新鮮なアプローチで人権問題について考えることができた。また人権・同和教育LHRについても,内容の見直しを行いながら,事前研修の充実を図ることができた。	特別な機会にとどまらず,学校生活のあらゆる場面で,各教職員が人権問題・同和問題に配慮した教育活動を進めていく,という雰囲気を,学校全体として醸成していきたい。
	地域社会や小中学校との交流,情報交換を密にし,進路保障のための協力体制をつくる。	定期的に小中学校等との交流・情報交換の場を設けるとともに,地区で開催される保護者懇談会や学校説明会の機会をとらえて地域社会との連携強化をめざす。	①	B	従来 of 取り組みに加え,日常的にも地区関係機関や保護者との情報交換・連携強化を図る。	B	定期的に行われる小中学校等との交流・情報交換の機会や地区で開催された保護者との懇談会・学校説明会への参加などを通し,地域社会との連携を強化することができた。	従来 of 取り組みをさらに充実させるとともに,日常的な場面でも,小中学校等との交流や地区関係機関・保護者との情報交換・連携強化をいっそう進展させたい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
保健環境部	生涯を通じて健康な生活を送るために、講演・講習会等を通して、自ら考え実践する力を育てる。	・性教育や薬物乱用教室を実施する。 ・心肺蘇生法・AED講習会を実施する。	①	B	アンケートを取り、課題等を次回に生かす。	B	・性教育や薬物乱用教室は、性病に関する知識や薬物の身近に潜む危険性や恐ろしい作用など、DVDを視聴させることでより具体的に理解させるようにした。 ・AED講習会は、日本赤十字社香川県支部から講師を招き、2015年に変更された蘇生ガイドラインに沿って、ポイントを押さえた分かりやすい講習をしていただいた。	講師の方を招き、講演会等を多く実施したい。

分 掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教 育 相 談 部	生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。	生徒の多様なニーズに対応する際、保護者の協力や理解が得られるように、学級担任や学年主任との連携やSC、SSWと教育相談部員の連携体制の在り方を工夫する。	①	B	保護者との連携をはかり、必要な場合は医療機関との連携を実施している。今後、内容を支援に生かしていけるように、関係職員のケース会を効果的に実施していく。	B	生徒の多様なニーズに対応する必要が生じ、保護者・医療機関との連携、校内連携の充実などできる限り行った。ケース数が年々増えているので、校内連携がさらに必要と思われる。	入学時に支援希望のなかった発達障害の生徒の問題点に気づくことがいくつかあった。支援希望のとり方を工夫し、入学後のアプローチについても工夫していきたい。
	生徒の出席状況を把握し、欠席等の原因を解明する。悩み等の解決に尽力し、規則正しい生活が送れるように支援する。	欠席・健康調査や学校生活アンケートを活用し、早期発見、早期対応につとめ、教育相談部内での連携を強化し、多面的な校内支援体制を作る。	①	B	不登校生徒や困り感を抱えている生徒、成績不振の生徒への対応が早期に出来るようになってきた。多面的な校内支援ができるように、関係職員の体制作りをしたい。	B	今年度は不登校生徒が複数在籍しており、個々に合ったアプローチを医療機関・保護者・関係職員と連絡を取りながら可能な限りできたと思う。家庭とのコンタクトの取りにくいケースは対応が難しく、今後の課題である。	関係職員の連絡を密にし、早期発見・早期対応にさらに努めていきたい。 家庭との連携が非常に難しいケースも増えているため今後の対応を考えていきたい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教 育 研 究 部	授業研究・学力向上の取り組みの改善に向けて共通理解を図る。	従来の取り組みの課題について広く意見を募り、改善へと方向付ける。	①	B	アンケート集約を中心に、継続して取り組む。	B	漢字・英単語・課題テストの改善に向け話し合った。生活時間アンケートは今回の改良に加え、活用しやすい形式にしたい。	授業研究・学力向上の取り組みを充実させる。
	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。	各教科、分掌と連携して図書館利用の促進を図る。	①	B	生徒図書委員会を中心とした広報活動を、より積極的に行う。	B	琴高祭、読書週間の企画・展示等、広報活動に努めた。さらに積極的に取り組みたい。	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。
	学校評価アンケートの項目を見直し、取り組みの改善に繋げる。	アンケート項目を、課題が具体的に見えてくる形に変えて実施する。	①	B	継続して取り組んでいく。	B	生徒・保護者アンケートの項目を、答えやすさと実態把握の観点で見直した。結果を分析し、必要に応じて改善する。	学校評価アンケートの結果を取り組みに生かす方策を考える。

分 掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※ 1	実施状況 (中間評価) ※ 2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※ 2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
広 報 渉 外 部	琴高通信」の発行、ホームページの適時的な更新により、地域や保護者へ、本校の教育活動の発信を行う。	ホームページの行事予定などの内容を定期的に更新する。「琴高通信」第 18 号を 9 月中をめどに編集・発行する。	①	B	ホームページの行事予定などの内容を定期的に更新することができた。「琴高通信」第 18 号は 10 月月中をめどに編集・発行する。	B	ホームページの内容を更新することができている。「琴高通信」第 18 号を発行、配布することができた。	ホームページの更新、琴高通信などを中心に情報発信を続けて行く。
	地域との連携を密にすることにより、ボランティアや地域行事への参加および質の向上を図る。	琴平高校芸術祭などの計画・実施を行う。ボランティアセンターを活用し、地域のさまざまなボランティア活動への参加を行う。	①	C	地域のボランティア活動への参加は、昨年並みに行えているが、ボランティアセンターの活用はできていない。	C	地域のボランティア活動への参加はできているが、ボランティアセンターの活用には工夫が必要である。	ボランティアや地域行事への参加および質の向上を図る。
	P T A 活動、同窓会活動を通じて、保護者や同窓会との連携を密にする。	P T A 総会、琴高祭での P T A バザー、同窓会の役員会などを計画し連携を密にして行く。	①	B	P T A 総会、琴高祭での P T A バザー、同窓会の役員会などを計画し実行している	B	P T A 総会、琴高祭での P T A バザー、同窓会の役員会などを計画、実行できた。	P T A 活動、同窓会活動を通じて、保護者や同窓会との連携を密にする。

学 年 団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
1 年 団	家庭での学習習慣を確立させ、基礎学力を定着させる。	・定期考査の学習計画作成 ・漢字テスト、英単語テストの全員合格を目指す	①	B	1学期期末試験の欠点保持者に個別に指導する。その他の生徒には、継続して学習習慣の確立を指導する。	B	クラス担任の粘り強い指導で、成績が安定してきた。学習習慣については、継続して指導する必要がある。	学習計画の作成、漢字テスト・英単語テストの学習を通して、基礎学力を養成していく。
	基本的な生活習慣を確立させる。	・定期的な服装検査の実施 ・始業時間を守らせる ・あいさつの徹底	①	B	欠席が増えているので、体調管理を指導する。引き続き服装の指導をしていく。	B	長欠以外の生徒は、出席が良好である。服装については、継続して指導していく。	琴高生として自覚した服装・生活態度を身に付けさせる・
	コース選択に向けて進路を考えさせる	・PLAN-DO-SEEを使い、進路を考えさせる ・進路にあったコースを選択させる	①	B	希望を調整して、進路実現に向けて、コースを決定させていく。	B	ほとんどの生徒は第1志望のコースで決定した。進路に合ったコース選択の指導ができていた。	人文社会コースには健康福祉コースとの選択があるので、面接等で指導していく。

学 年 団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
2 年 団	学習習慣を確立させ 自学自習の意欲・態 度を培い、基礎学力 を定着させる。	漢字・英単語テスト等 地道に根気強く指導す る。 各クラスで面談を実施 し、成績について指導 する。	①	B	大半の生徒は普通に 学習できているが、 一部の生徒は学習意 欲に乏しく、成績が 不良で進級に不安が ある。個別に指導し ていくものとする。	B	各クラスで面談を 実施し、成績につい て指導することが できた。今後も、地 道な指導を継続し ていくことが必要 である。	基礎学力の定着を図 るため、継続的な指 導を根気強く行って いく。
	基本的生活習慣を定 着させる。	①制服を正しく着用させ る ②時間を厳守させる ③言葉遣いを正しくさせ る	①	B	大半の生徒は普通に 生活できているが、 一部の生徒は規範に 乏しい。個別に指導 していくものとし る。	B	ほとんどの生徒は落 ち着いた学校生活を 送っている。明らか に生活が改善され た。	生徒指導部と連絡 を密にし、地道な指 導を継続していく。
	適切な進路選択が行 えるように、進路意 識の向上を図る。	進路の情報を提供し、ま た、面談・指導を実施す ることで進路意識の向 上を図る。	①	B	多様な方法で適切な 進路指導が行う。	B	具体的な進路選択を 決定している生徒も 多くなった。成果が あがった。	今後も進路指導部 と連携し、より一層 成果をあげたい。

学 年 団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
3 年 団	進路を実現するために日々努力する。	・保護者と連絡を取りながら、計画的に進路を決定する。 ・進路資料や情報を生徒に継続的、意識的、積極的に提供する。 ・生徒との面談を必要に応じて実施する。	①	B	進路実現に向けて積極的に努力させる。	B	・情報の発信が遅れないように必要に応じた三者懇談を実施した。 ・進路指導部と教育相談部の連携により迅速な対応ができた。	・自分の可能性に挑戦できる生徒を育てる。 ・常に保護者と連絡を取りながら、計画的に進路を決定する。
	授業を真剣に受ける。	・進路目標を自覚させた家庭学習をさせる。 ・提出物の期限を守らせる。	①	B	進路意識をより一層自覚させる。	B	・進路目標を自覚させ、個別指導による学習指導を効果的に行うことができた。	・短期的な目標を立てさせ、継続した取り組みができるようにする。
	基本的な生活習慣を確立させる。	・校則を遵守させ、社会のルールを身につけさせる。 ・挨拶の励行、清掃、服装の整備を意識させる。 ・保護者との連携を密にし、生活実態を把握する。	①	B	継続した指導を意識させる。	B	・担任を中心に、学年団の職員が連携し、生徒の指導を行うことができた。	・共通した意識を学年団が持ち、指導に臨めるようにする。 ・生徒自ら場面において、なぜ大切かを理解させて取り組ませる。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
国語	主体的な学びを重視し、バランスのとれた国語力を育てる。	「読む」「書く」「話す」「調べる」等、様々な要素を組み合わせて実践する。各自の取り組みを科内で共有する。	①	B	生徒からの授業評価を受けて話し合った授業改善策を取り入れながら、継続して取り組んでいく。	B	興味を引き出す工夫をしつつ、読解力や表現力を高めようとする取り組みを課題として授業改善を続けたい。	主体性や考える力を育てることを目指し、授業改善に取り組む。
地歴公民	従来の取り組みを継続し、社会常識・社会事象を自主的に知ろうとする習慣を身につけさせる。また社会情勢を知ることだけにとどまらず、自分なりに考えたり、考えを文章化したりする姿勢を育ませる。	新聞やテレビのニュース番組等を積極的かつ分かりやすく授業で取り上げ、生徒の興味関心を高めるとともに、考查問題等にも反映させることで社会常識・社会事象に関する知識の定着を図る。また調べる・考える・表現するということに挑戦させ、生徒の問題意識の深化をめざす。	①	B	全科目で時事問題等を授業でとり上げ、生徒たちに興味関心をもたせたり、調べ学習に取り組ませたり、またそうした活動を定期考查等でも評価できるように工夫している。今後さらに自ら問題を設定し、考え、表現するということろへ生徒を進ませるための取り組みを進めていきたい。	B	授業改善をさらに進めることで、生徒たちの日常的にテレビのニュース番組等から情報を得ようとする習慣は定着してきた。また授業中の生徒への発問のあり方や定期考查問題の改善等を通じて、生徒たちは自ら考え、表現する姿勢を身につけつつある。	従来の取り組みを継続・深化させ、社会常識・社会事象を自主的に知ろうとする習慣を生徒たちにいっそう身につけさせたい。また社会情勢を知ることだけにとどまらず、自分なりに考えたり、考えを文章化したりする姿勢をさらに育ませたい。

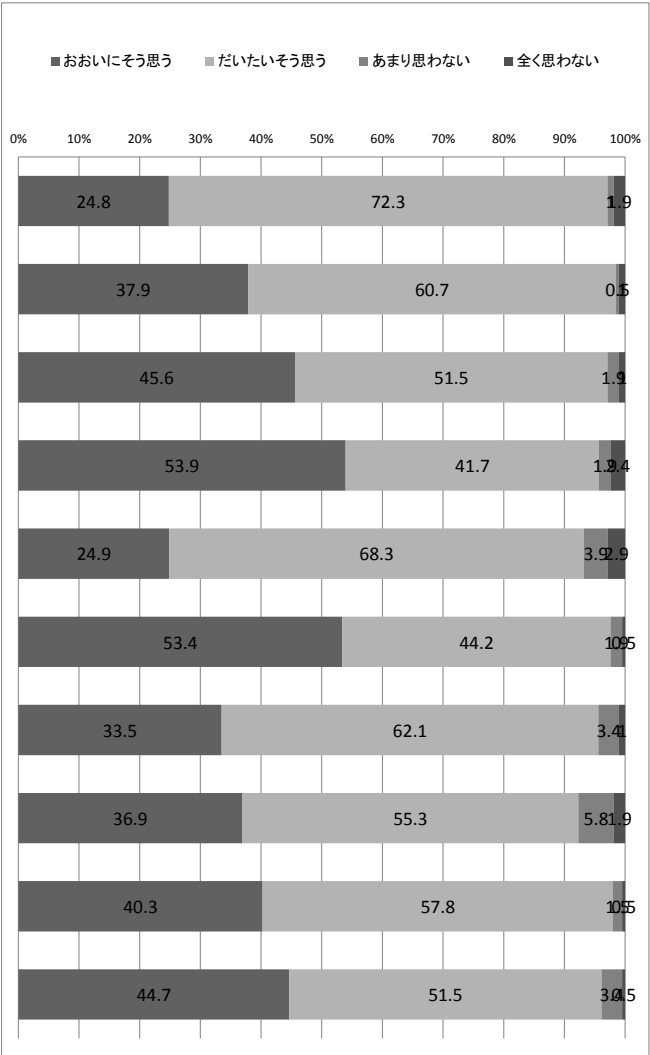
教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
数 学	学習内容の定着を図り達成感を持たせる。	小テストや確認プリントを定期的に実施する。	①	A	小テストや確認プリントを継続する。	A	定期的に復習することにより学習内容の定着が図れた。	学習内容の定着を図り、より多くの生徒に達成感を持たせる。
理 科	基本的な知識の定着を図る取り組みを継続するとともに、興味関心を持たせるために、実験を多く行うことができるよう計画する。	実験などを取り入れ、興味関心を持たせるとともに、基礎的な知識の充実を図る。	①	B	小テストや確認プリントを利用し、基礎的な知識の定着を図る。	B	基本的な事項をじっくりと取り組むことで、知識の定着が見られた。科目によっては、授業の進度の都合もあり、実験が十分実施できていない。	基本的な知識の定着に重点を置くとともに、実験により、興味・関心を持たせることができるようにする。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※ 1	実施状況 (中間評価) ※ 2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※ 2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
保健体育	主体的に活動に取り組ませるために、自ら考え実践する機会を多く持たせる。	理論的な説明を多く取り入れ、実践に照らし合わせ思考・判断させる。	①	B	より具体的な説明を多くすることで理解度を高め、思考・判断をし易くさせる。	B	理論に沿ってホワイトボードを使い丁寧に図説をしたり、生徒に発言させる機会を多く設けたりした。 性差や集団、種目等により主体的に取り組む姿勢に大きな差が出てしまう。	昨年同様、主体的に活動に取り組む姿勢を身につけさせたい。また、それを通して、豊かなスポーツライフを継続するとともに、健康の保持増進に努めさせたい。
	安全に留意して活動させる。	実施種目の特性や実施内容、用具などについて、危険性も含め、その都度具体的に指示・指導を行う。	②	A	タイムリーな話題を織り交ぜ、その都度具体的に指示・指導を行う。	A	授業の中でタイムリーな情報の提供や過去の経験など、具体的な事例を話すことで、常に安全に対する意識を持たせるようにした。 生徒アンケートから、安全に留意して活動しているとの回答を得た。	安全・健康に留意して活動する、活動させることを目標とする。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※ 1	実施状況 (中間評価) ※ 2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※ 2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
芸術	作品や、教材を用いた鑑賞活動を積極的に行い、生徒自ら感じたことを、自らの言葉によって表現できる言語活動の充実を図る。	・鑑賞に積極的に関わり、言語活動を重視する。 ・視聴覚機器を、取り入れる。	①	B	継続して取り組む。	B	書道・美術では、鑑賞に積極的に関わり、作品に生かすことができた。 音楽では、言語活動では、作品の時代、歴史、文化等いろいろな知識がないと深められないと感じた。	生涯学習につながる知識を身につけさせる。 主体的に取り組める、教材研究の充実をはかる。
英語	生徒たちが活動的であるように簡単なクラスルーム・イングリッシュを用いさせながら英語の楽しさを実感させる。	少々意味が理解できなくても大きな声で、英文を朗読し表現する楽しさを実感させる。また、異文化の情報を豊富に提供して語学学習の楽しさを開眼させる。	①	B	今年度の生徒たちは声を出して音読することに抵抗を感じることなく大きな声で読めている。簡単な英語表現を覚えた。	B	全教員が英語で教えることを意識している。各人が工夫をしながらクラスに応じて多様な取り組みを行った。	今年度同様英語科の会を頻繁にもち統一見解の下で個性的な授業を工夫して行うようしたい。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
家庭	平成29年度の家庭クラブ県大会でのホームプロジェクト発表に向けて、授業内容を実生活に活かせるよう工夫する。	過去の発表の例を紹介して、自分の家庭生活の問題点に目を向けさせる。授業の中で実習や演習を多く取り入れ、実践力を養う。	①	B	被服、調理共に実習の後に実生活でも取り組めるものについては例を挙げ、実践するように声かけをする。	B	実生活で取り組めるような内容や生徒自身が考える演習を取り入れた。	生徒の生活の質の向上を目指し、また、来年度の県大会でのホームプロジェクト発表に向けて研究を進め、授業内容にも取り入れる。
	効果的に実習を行えるように環境を整備する。	実習室にある道具を見直し不要なものを処分して、使いやすい環境を整える。	①	B	特に調理室の調理器具が古いので新しく使いやすいものを希望している。	B	購入済みのものから古いものと交換して、衛生的に環境を整えられている。	入れ替えと共に不要なものは処分し、スペースを確保する。
商業・情報	検定試験合格を意識した授業へ取り組みを身に付ける。(商業科)	簿記、ビジネス文書実務検定、情報処理、電卓検定から三種目3級以上に合格させる。	①	B	今一度、基本を確実におさえさせる。	B	2年生の各検定合格者が安定していた。	授業で外部との地域連携を進めていく。
	情報リテラシーソフト(ワード、エクセル、パワーポイント)に慣れる(1年)	ビジネス文書実務検定の受験を促す。情報処理検定の基礎を押さえ、プレゼンも体験する。	①	B	予定どおり進められている。	B	ソフトの基礎的な項目(3種)を押さえた。	イントラネットを視野に入れた授業も考える。

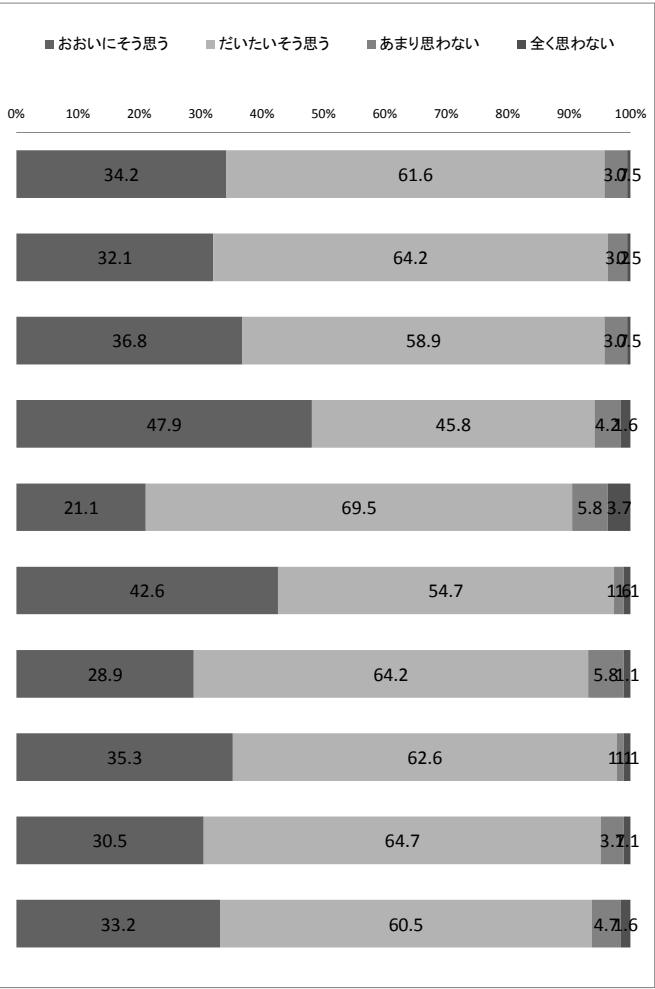
		おいにうう- いたうう(%)	平均値 (4段階)
1	個人面接は、自分の適性や生活を見つめ、進路について考えるきっかけとなった。	97.1	3.2
2	進路見学会や進路相談会では、進路情報を得たり進路について考えたりすることができた。	98.6	3.4
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	97.1	3.4
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	95.6	3.5
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	93.2	3.2
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	97.6	3.5
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	95.6	3.3
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	92.2	3.3
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	98.1	3.4
10	琴平高校での高校生活に満足している。	96.2	3.4



アンケートで2または1を選択した理由

- 3 ・クラスがあまり好きになれないから。
- 5 ・ボランティアをやれる時間がないから。
- 7 ・悩みを打ち明けられないから。
- 8 ・気が緩んで、成績が下がってきているから。
- 9 ・授業がうるさい時があるので。
- 10 ・面白くないので。

		おおいにそう思う だいたいそう思う(%)	平均値 (4段階)
1	自分の適性或進路目標にふさわしいコースを選択できた。	95.8	3.3
2	個人面接、進路見学会、進路相談会などを通じて、進路について考えることができた。	96.3	3.3
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	95.7	3.3
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	93.7	3.4
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	90.6	3.1
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	97.3	3.4
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	93.1	3.2
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	97.9	3.3
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	95.2	3.2
10	琴平高校での高校生活に満足している。	93.7	3.3



アンケートで2または1を選択した理由

- 1 ・思ったより理数系科目が多すぎた。 ・途中で目標が変わったので。 ・まだ自分の進路が決まっていないので。
- 3 ・集団行動が好きでないから。
- 5 ・どんなボランティアがあるか知らないの。

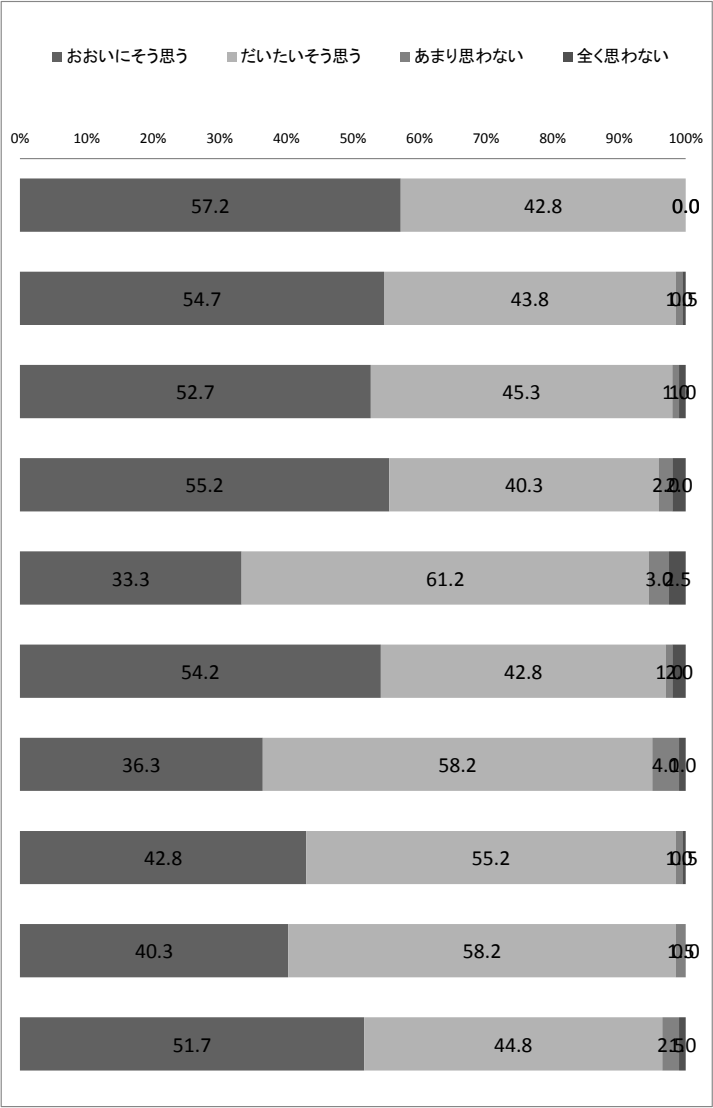
- 6 ・人を傷つけてしまうことがあったから。
- 8 ・勉強せずに寝てしまうことが多いから。
- 9 ・苦手な先生がいるから。
- 10 ・学校に来る意味を感じられないから。

		おいにうう たいにうう (%)	平均値 (4段階)
1	自分の適性や進路目標にふさわしいコースを選択できた。	100.0	3.6
2	個人面接、進路見学会や進路相談会などを通じて、進路について考えることができた。	98.5	3.5
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	98.0	3.5
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	95.5	3.5
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。。	94.5	3.3
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	97.0	3.5
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	94.5	3.3
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	98.0	3.4
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	98.5	3.4
10	琴平高校での高校生活に満足している。	96.5	3.5

アンケートで2または1を選択した理由

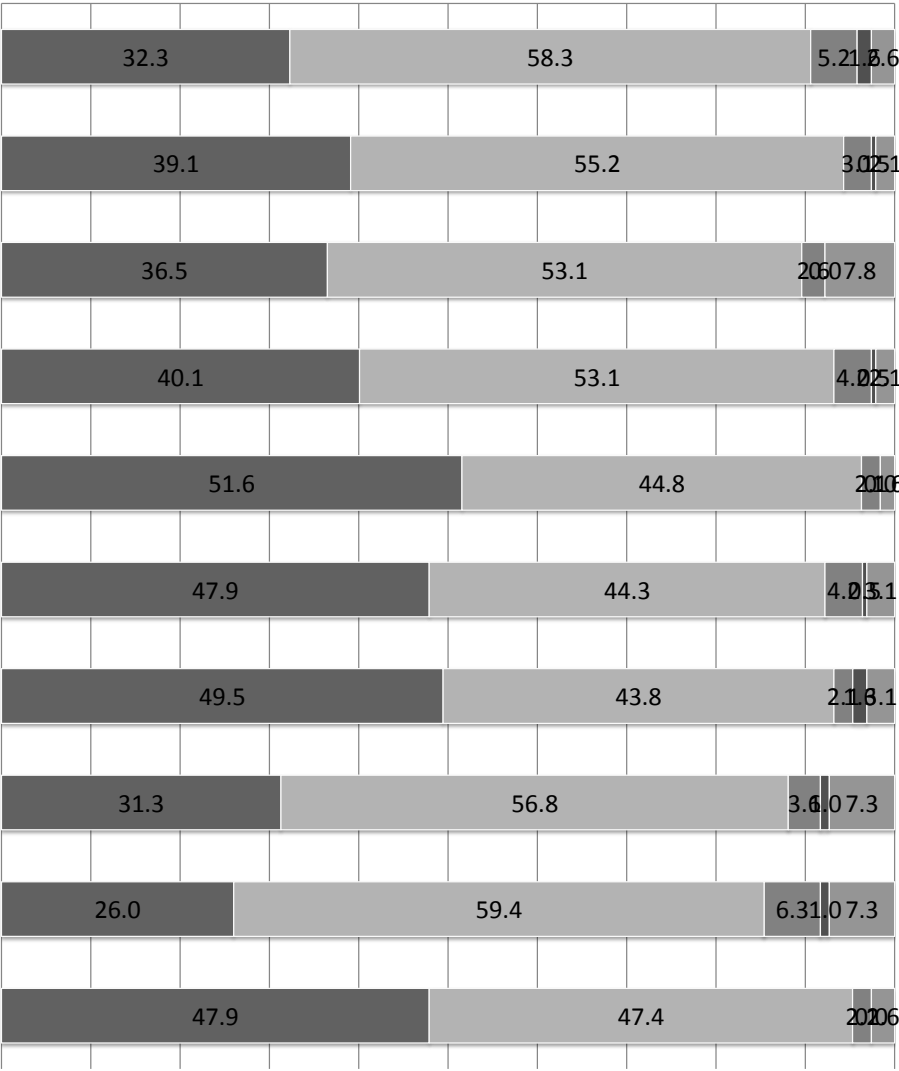
6 ・差別はないけど、偏見はあった。

8 ・全然できなかった。



		おいにうう たいにうう (%)	平均値 (4段階)
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	90.6	3.2
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	94.3	3.4
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	89.6	3.4
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	93.2	3.4
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	96.4	3.5
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	92.2	3.4
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	93.3	3.5
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる。	88.1	3.3
9	学校からの文書やホームページを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	85.4	3.2
10	琴平高校での高校生活に満足している。	95.3	3.5

■ おおいにそう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ わからない



平成28年度 学校関係者評価委員会

日 時：平成29年2月17日（金）15：00～16：30

場 所：香川県立琴平高等学校 小会議室

参加者：学校関係者評価委員（学校評議員5名）

学校職員6名（校長、教頭、教頭、事務部長、教務主任、教育研究部長）

1 学校関係者評価委員会の状況

本校のミッション、ビジョン、本年度の重点目標の説明後、各分掌、各教科の目標と評価、生徒からの評価、学校関係者（保護者）評価を本校教頭が説明した。その概要は、以下の通りである。

各分掌とも概ねB評価が多くつけられているが、進路指導部では総合的な学習の時間用に今年度から導入した『進路サポート』の活用が十分でなかったためC評価がつけられ、広報渉外部では昨年度に設置した「ボランティアセンター」の活用が不十分であったことからC評価がつけられている。生徒からの評価項目では、昨年に学校評議員から指摘を頂いたアンケート番号7の内容を生徒が答えやすい表現に変更した。また、3年生では「自分の適性や進路目標にふさわしいコースを選択できた」の項目で100%満足できた回答であった。保護者からの評価は概ね良好で、記述の内容も「3年間ありがとうございました」といった内容がほとんどであった。教員対象の自己評価では、「多忙である」「学校に特徴がない」ためC評価を付けた職員もいた。

続いて学校評議員の一人より、生徒のやる気を出させるのはなかなか難しいことだと思う。今年度、授業改善やキャリア教育をどのように進めてきたのかの質問を受けて、教育研究部長より、各学期に「拡大研究授業」を実施し、他教科の教員も授業中の生徒の活動を観察し、評価することで授業改善に生かしてきた。また、生徒からの授業アンケートに関して各教科で話し合い、授業改善に活用してきた、との回答をした。また、アクティブラーニングに実施状況についても質問があり、その質問に対しては、校長より、アクティブラーニングに関する現職教育を、香川大学の山岸先生に公演に来ていただき実施した。一方的な講義形式の授業だけでは本校生はついてこないことから、もともとアクティブな形態の授業を行っている教員が多い、との回答をした。キャリア教育としては、総合的な学習の時間に1年生でベネッセの「進路サポート」を用いて実施したが、十分ではなかったため次年度は別の教材を使って進めたいと考えている、とも回答した。

次に、別の学校評議員より、生徒と保護者の評価結果を見ると、両方ともかなり高い評価がもらえていると思う。ボランティアに関しても生徒からの評価は良いようだ。教育相談に関しては、地味な分掌であるにもかかわらず、職員からの自己評価が高いのは素晴らしい、との講評をいただいた。

また、もう一人の学校評議員より、保健環境部では、地域防災に関して町などと連携を図って実施してほしい。教育研究部は、昨年度のアンケート項目から分かりやすく改善できているので、A評価が出せると思う。広報渉外部では、昨年度に作成した『琴高ふれあいダイアリー』の配布後の反響について知りたい。全般に自己評価が謙虚で、もっとA評価を出せる項目がたくさんあると思う、などの講評・質問をいただいた。『ふれあいダイアリー』については、琴平町とまんのう町の全戸に配布したが、その後の評判等の確認はできていないので、機会があればしたい、との回答をした。

その他、情報教育に関する問題点、主権者教育、キャリア教育などについても話が及び、とても有意義な会となった。

2 平成29年度に向けて

校務分掌、学年団、教科における自己評価は、概ね良好であった。しかし、学校評議員から指摘があったように、目標と評価が28年度とあまり変わらない教科については、学校評価の意義を再確認し、次年度に向けて検討してほしい。また、分掌、教科によっては、重点目標と具体的な取り組みが、本校のミッションやビジョンを踏まえたものに必ずしもなっていないところがあり、改善の余地があると考えます。その他、学校評議員との話の中で出てきた、地域防災やキャリア教育についてももう少し分掌等で話し合い、具体的な計画を示すようにしていきたい。

29年度は、本校にとって創立80周年の記念の年であるので、この節目の年に今一度本校の目指すところを再考し、地域に愛され、生徒やその保護者が、「琴高に来てよかった」、「琴高に子どもを通わせてよかった」という評価が得られるよう、職員一丸となって努力を重ねていきたい。